

2018年11月8日 ドイツ・ミュンヘン

2018年度 第4四半期決算

期間:2018年7月1日~9月30日

業績見通しを再度完全達成—通期で好調を続ける

「シーメンスは、期中に掲げた業績見通し(ガイダンス)を完全に達成して、皆様のご期待に再度応えることができました。成長市場がある一方で、難しい市場環境のなかで、競合に打ち勝てたことは、シーメンスのグローバルな強さを示しています。2019年度は、個々の事業に大幅な独立性を持たせ、Vision 2020+実行に向けた基盤を構築していきます」— ジョー・ケーザー、シーメンスAG社長兼CEO

2018年度通期

- 為替の影響およびポートフォリオの効果を除く比較可能ベースで、受注は8%増、売上は2%増で、インダストリービジネスの大半の事業が成長に貢献。
- 名目ベースで、受注は6%増の913億ユーロ、売上は微増の830億ユーロ。出荷受注比率は1.10。
- インダストリービジネスの利益は減少して88億ユーロ。パワー&ガス事業の急激な収益減をインダストリービジネスの大半の事業が上げた利益で補いきれず。
- インダストリービジネスの利益率は、退職関連費用を除くと11.3%で、11%~12%のガイダンス範囲内。8億ユーロの退職関連費用を算入すると10.4%。なお、インダストリービジネスの大半の事業は、目標利益率の範囲内か超過。
- 純利益は微増の61億ユーロ。基本1株当たり利益は7.12ユーロで、退職関連費用を除くと7.88ユーロ、7.70ユーロ~8.00ユーロのガイダンス範囲内。
- フリーキャッシュフローは前年比22%増加の58億ユーロ。
- 1株当たりの配当は0.10ユーロ引き上げ、3.80ユーロを見込む。
- 2015年11月に開始した総額30億ユーロの自社株買いを完了。2021年11月までに最大30億ユーロの新たな自社株買いを発表。

2018年度第4四半期

- 売上は2%増の226億ユーロ、受注は前年同期の好業績を少し上回る237億ユーロ。出荷受注比率は1.05で、過去最高に匹敵する四半期業績を達成。
- 比較可能ベースで、売上、受注ともに5%増。
- インダストリービジネスの利益は、パワー&ガス事業の大幅な赤字および3億ユーロの退職関連費用を含め、微増の21億ユーロ。
- モビリティ事業のカーブアウト(事業分離)に関連する5億ユーロの退職関連費用(税引前)および多額の法人税等により、純利益は7億ユーロ、基本1株当たり利益は0.69ユーロ。

(単位：100万ユーロ)	第4四半期		増減 (%)	
	2018年度	2017年度	実質	比較
受注	23,700	23,657	0%	5%
売上	22,606	22,216	2%	5%
利益				
インダストリービジネス	2,145	2,137	0%	
内、退職手当	(482)	(188)		
利益率				
インダストリービジネス	9.3%	9.5%		
退職手当を除く	11.3%	10.3%		
継続事業からの利益	659	1,220	(46%)	
内、退職手当	(527)	(221)		
純利益	681	1,251	(46%)	
基本1株当たり利益 (単位ユーロ)	0.69	1.52	(55%)	
フリーキャッシュフロー (継続事業と非継続事業)	3,283	2,376	38%	
ROCE (継続事業と非継続事業)	6.0%	10.1%		

- ほぼすべてのインダストリービジネスの比較可能ベースによる受注増は、モビリティ事業の大幅成長とデジタルファクトリー事業および Siemens Healthineers の2桁増によるもの。エナジーマネジメント事業は高業績であった前期に比べて受注減。
- シーメンス・ガメサ・リニューワブルエナジー (SGRE) は大幅な売上増、デジタルファクトリー事業は堅調な売上増、パワー&ガス事業は市場の縮小により売上減。
- 受注残は 1,320 億ユーロで、為替のマイナス影響にもかかわらず、前四半期に続き記録的なレベルを維持。
- 為替のマイナス影響は受注を 4 ポイント、売上を 3 ポイント押し下げる。ポートフォリオ取引は前年比で売上にほとんど影響せず。
- インダストリービジネスの利益：インダストリービジネス 8 事業中 6 事業で増益。最大の利益増を達成した事業は SGRE、次にデジタルファクトリー事業。為替のマイナス影響にもかかわらず、インダストリービジネスの中で最大の利益貢献を果たしたのは Siemens Healthineers とデジタルファクトリー事業。プロセス&ドライブ事業とエナジーマネジメント事業では為替のマイナス影響は比較的軽微。以前に発表したパワー&ガス事業の競争力強化策に関連した退職金 3 億 100 万ユーロを含め、同事業の赤字により、インダストリービジネスの利益が大幅に相殺される。プロセス&ドライブ事業の退職金関連費用は 8,500 万ユーロ。
- 継続事業からの利益および純利益は、主にモビリティ事業のカーブアウトに関連する所得税費用の急増により低下。
- インダストリービジネスからのフリーキャッシュフローは、前年同期の 28 億 3,700 万ユーロから 31 億 6,600 万ユーロに増加。主に SGRE による 2018 年第 4 四半期の正味営業運転資本の記録的な大幅増による。インダストリアルビジネス以外のフリーキャッシュフローも前年比増に貢献。
- 最長 12 年を満期とする総額 27 億 5,000 万ユーロの社債を発行。償還はフリーキャッシュフローの一部とせず。
- 年金引当金および類似債務は 2018 年 9 月 30 日現在で 77 億ユーロに微増 (2018 年 6 月 30 日現在は 76 億ユーロ)。
- ROCE (使用資本利益率) は純利益の減少により低下。平均投下資本の僅かな減少によるプラス効果を相殺。

将来の業績に関する見通し

このリリースには、過去の出来事ではなく、将来の業績に関する見通しや情報が含まれています。「期待する」、「予想する」、「意図する」、「計画する」、「信じる」、「模索する」、「推定する」、「予定する」といった言葉やその類義語は、将来の業績に関する見通しに該当する可能性があります。こうした見通しは、当社の現時点での予測と一定の前提に基づいており、したがって、特定のリスクや不確実な要素に左右されることがあります。シーメンスの事業活動、事業戦略、業績に影響を及ぼす要素はさまざまで、その多くはシーメンスには制御不可能なものです。そのため、シーメンスグループの実際の業績、活動、成果は、こうした将来の業績に関する見通しの記述や暗示とは大きく異なる可能性があります。特定の不確実な要素には、景気や取引状況の変化、為替動向や金利の変化、他社による競合製品・技術の導入、シーメンスグループの新しい製品・サービスの不振、事業戦略の変化やその他のさまざまな要素の変化などが含まれます。万一、これらのリスクや不確実な要素が現実のものになれば、実際の業績は将来の業績の見通しの予想、確信、予測、期待、意図、計画、予測とは大きく異なる可能性があります。シーメンスは、将来の業績に関する見通しの作成後に発生する出来事に照らして見通しを更新、修正する意図はなく、またそうした義務を負うものではありません。

【参考資料】

本資料はシーメンス AG(ドイツ・ミュンヘン)が 2018 年 11 月 8 日(現地時間)に発表したプレスリリースの一部を日本語に抄訳したものです。本資料の正式言語はドイツ語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。原文プレスリリースおよび関連資料は以下の URL よりご覧いただけます(英文)。

https://www.siemens.com/investor/pool/en/investor_relations/financial_publications/speeches_and_presentations/q42018/2018-q4-earnings-release-e.pdf

報道関係からのお問い合わせ先:

シーメンス株式会社

コーポレートコミュニケーション部 今村

電話: 070-4509-5465

E-mail: masako.imamura@siemens.com